

上総かみつふさの末すえの珠名娘たまなをとめ子を詠よむ一首 并あはせて

短歌たんか

一七三八番

しなが鳥とり 安房あはに継つぎたる 梓弓あづさゆみ 末すえの珠名たまなは
胸別むなわけの 広ひろき我妹わぎも 腰細こしほその すぐる娘をとめ子の その
姿かほの きらきらしきに 花はなの如ごと 笑あみて立たてれば
玉梓たまほこの 道行みちゆき人は 己おのが行ゆく 道みちは行ゆかずて
呼よばなくに 門かどに至いたりぬ さし並ならぶ 隣となりの君きみは
あらかじめ 己妻おのうまか離ちれて 乞こはなくに 鍵かぎさへ奉まっ
る 人皆ひとみなの かく迷まどへれば うちしなひ 寄よりて
そ妹いもは たはれてありける

反歌はんか

一七三九番

金門かなとにし 人ひとの来立きたてば 夜中よなかにも 身みはたな知し
らず 出いでてそあひける